

学校通信



にしあさけ



四日市市立西朝明中学校

令和7年度 第12号
令和7年9月5日(金)

全国学力・学習状況調査結果を受けて

令和7年度の全国学力・学習状況調査の西朝明中学校の結果を受けて分析の結果をお伝えします。

<学習状況調査の結果から>

全項目を通して、県や全国よりも肯定的な回答が多く、中でも「朝食を毎日食べているか」「毎日同じくらいの時刻に起きているか」の質問に対して、肯定的な回答が県や全国よりも5ポイント(以下Pと表記)以上多く、規則正しい生活を送ることができていることが分かります。

学校生活に目を向けると、「学校に行くのは楽しいか」「友達関係に満足しているか」の質問に関しても、肯定的な回答が県や全国よりも高く、良好な人間関係を構築し、充実した学校生活を送れていると感じている生徒が多いことが分かる。これまで、SSTやSGEの活動を取り入れてきた成果が表れていることを感じられます。

昨年度の同紙面上で低調な結果であったと紹介した「将来の夢や目標を持っているか」の数値が上がり、「自分にはよいところがあると思うか」「人の役に立つ人間になりたいと思うか」の質問も含め、県や全国よりも肯定的な回答が10P以上高く、自己肯定感や自己有用感が育まれていることが伺える結果となりました。

学習面に関しては、授業でのICT機器の活用値も高く、ICT機器を使って情報を整理したり、スライドを作成したりするなど、授業を通して得たスキルを、学びを深めるために活用していることがうかがえます。

「新聞を読んでいるか」に対しては、ほぼ毎日読んでいると答えた生徒が県や全国よりも多く、「読書が好きか」の質問に対しても、肯定的な回答が県や全国よりも多いことから、普段から文章にふれる機会が多く、「国語の勉強は得意か」の肯定的な回答が多いことにもつながっていると思われます。

授業中「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」「生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができたか」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか」については、県や全国よりも10P以上肯定的な結果であり、授業に主体的に取り組み、学びに向かう姿勢が感じられます。今後も、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを心がけ、個に応じた学習活動を推進していきたいと考えています。

<学力状況調査の結果から>

本年度の学力状況調査は【国語】【数学】【理科】を実施しました。

【国語】では学校全体の平均正答率が全国平均よりも0.7ポイント(以下P)、県平均よりも2P高い結果となりました。領域別の結果を見ても、ほとんどの分野で県平均を上回る結果となりました。中でも、知識及び技能の分野では県平均を5P近く上回っています。問題別集計結果では、文学的な文章を読む問題が良くてきていて正答率も10P上回っていました。全体的にも無回答率が低く、前向きに取り組もうとする姿勢がみられます。

しかし、今回は大問の最後の記述式の問題について無回答率が上がりました。資料を用いて、自分の考えをわかりやすく伝えるように表現を工夫するという問題に戸惑いがあった可能性もありますが、他の記述問題への取組み傾向から、時間配分をできなかった生徒が複数いたのではないかと考えられます。今後の授業の中では限られた時間の中で、課題に取り組む学習を取り入れていきたいと考えています。

【数学】では平均正答率が三重県を1P上まわり、全国とほぼ同等でした。領域別でみたとき、2年時のみえスタにおいては対県比-4.8Pで基礎計算力が課題であった「数と式」では、1.5P上回り大幅に改善されました。逆に「データ活用」は2年次に対県比+11.3Pであったものが-1.8Pと大幅に低下しました。しかし、今回この分野の問題は1問のみで、1年学年末に出てくるだけの内容でした。普段の授業の中で繰り返し扱うことがないため、記憶が薄れていたものと考えられます。定期的な復習の必要性が再認識されました。

無回答率は全国比-3Pであり、自分にできそうな問題を1問でも多く回答しようという姿勢が見受けられます。普段の授業中から、意欲的に取り組んでいる様子がこの調査でも明らかになっています。また、他の生徒と協力しながら意見交換しながら考えようとするスタイルの授業がかなり定着している効果が表れ、何らかの形で考えを表現しようとするのが習慣化されつつあり、それが無回答率の低さにつながっているように思われます。今後も、他者と共同し、言語活動を大切にしながら、思考する習慣を継続していくことで学力向上に努めます。

解答類型をみると、数学用語の定義の理解があやふやであることに起因する誤りが目立ちました。基礎学力定着に向けて反復練習はこれまで同様に継続していきますが、用語の意味や、式が何を表現しようとしているのかという根本的な部分を言語化させ正確に理解していくことにも取り組んでいきます。

【理科】については数年に1度の調査であることや調査方法が他教科やこれまでと異なった実施方法であることから、分析が困難でしたが、共通問題の正答率、実施日により異なる問題の正答率ともに全国・県の値とほぼ同じでした。また、標準偏差やパーセンタイル値から、本校3年生は平均的な学力の生徒が多いことがうかがえます。このことは、国語・数学の結果からも読み取れます。

基礎的な問題も記述問題についてもある程度対応できていますが、空間認識の問題はやや弱い結果となりました。今後、天体の分野を学習するので、空間認識を意識して学習支援を行っていきます。